



超高齢社会、高度急性期病院が集まる地域で、得意領域を明確化し、地域医療を支える。キーワードは〈高齢者二次救急〉。

人口構成の変化を含め、医療を取り巻く環境が大きく変化するなか、今日の聖霊病院の救急医療を語る上でのキーワードのひとつが〈高齢者二次救急〉です。超高齢社会(65歳以上の人口が全人口の21%を超えた状況)が進展するなかで、地域の皆さんにどのような医療を提供できるか、その得意とする分野を明確にすることはとても重要と考えています。整形外科医でもある私は高齢者の大腿骨近位部骨折(股関節周囲の骨折)の患者さんを多く診療

しています。〈たかが骨折〉といわれるかもしれませんが、高齢者の股関節周囲の骨折は御持病なども影響し、健康寿命を損なうだけでなく、結果としてその生命予後を左右することも少なくありません。そのため、可能ならケガをしてから2日以内には〈骨折〉という異常な状態から離脱し、リハビリを開始することが重要といわれています。全身状態を整えるためにさまざまな診療科と協力し、また多職種のスタッフが患者さんのケアに取り組むことで早期手術・

早期リハビリを実現しています。

高度救急施設が近隣に多く存在する当院は、今後も二次救急施設として〈できること〉を明確に皆さんにお伝えしながら、地域の皆さんの「いざ」というときに寄り添える救急医療体制を維持し、皆さんの病やケガに寄り添っていきます。



救急部長
青木良記



院長 メッセージ

Message of the
hospital
superintendent

平成30年1月
病院長 森下剛久

高齢者二次救急を担う。

当院の近隣地域をみると高度急性期医療を担う大規模病院が多くあり、救急搬送が集中しています。しかし在宅療養中に骨折・肺炎・発熱・脱水などにより急性期医療を必要とする高齢者の受け皿として必ずしも適切であるとは限りません。このような地域において当院は

大部分の診療科が揃いながら内科医不足のため十分な機能を発揮出来ていませんでした。本年は内科医の充足が叶う年です。高齢者二次救急病院として地域の人々の期待に応えたいと考えています。聖霊病院は聖霊病院らしく優しさに溢れた救急医療を提供致します。

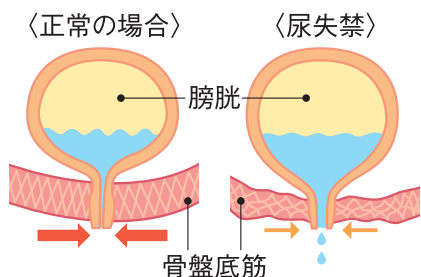
病気の基礎知識

排尿障害には大きくわけて「尿をためられない」病気と「尿が出にくい」病気があります。

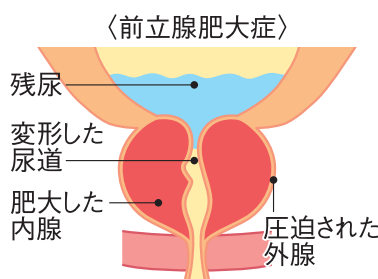
尿をためられない 〈尿失禁〉〈過活動膀胱〉。

尿をためられない病気には、〈尿失禁〉と〈過活動膀胱（かかつどうぼうこう）〉があります。尿失禁は、自分の意に反して尿がもれてしまうこと。尿道を閉じる役目を果たす尿道括約筋（にょうどうかつやくきん）や、膀胱を支える骨盤底筋（こつばんていきん）が弱くなると、尿がもれやすくなります。過活動膀胱は、膀胱が過敏になり、排尿してしまう病気です。急に尿意をもよおし、トイレに間に合わなくなったり、トイレの回数が増えたりします。これらの病気の主な原因は加齢ですが、

女性の場合、出産によって骨盤底筋群がゆるみ、尿もれを引き起こすこともあります。



尿をうまく出せない 〈神経因性膀胱〉〈前立腺肥大症〉。



尿が出にくくなる病気には、〈神経因性膀胱〉〈前立腺肥大症〉があります。神経因性膀胱は膀胱の機能が

低下する病気。正常であれば、膀胱に尿がたまると、脳に信号が送られ、尿意を感じます。そして脳から膀胱に排尿の指令が出るわけですが、その神経の一部が障害され、尿をうまく出せなくなります。脳梗塞や脳出血、糖尿病などが原因で発症するケースが多く見られます。前立腺肥大症は加齢により前立腺が肥大化して尿道や膀胱を圧迫することで、排尿障害になる病気です。初期の頃はトイレが近くなる頻尿が多く見られ、やがて、尿が出にくくなっていきます。

診療部長メッセージ

もう年齢だから…とあきらめないで、まずは受診を。



泌尿器科部長
伊藤靖彦

排尿障害は直接命に関わる病気ではないので、治療を後回しにする方も多くいらっしゃいます。しかし、排尿障害のために「映画を最後まで観られない」「バス旅行に行けない」などといった悩みがあれば、人生を楽しむことはできません。また、高齢者の夜間の頻尿に関しては、排尿時の転倒や骨折リスクを高め、寿命に影響を与えるという報告もあります。加齢だからとあきらめず、きちんと治療

することが大切です。

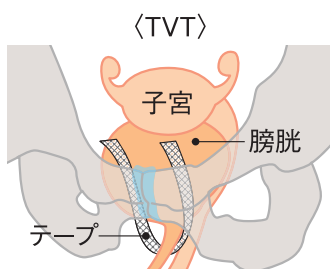
当院では、患者さんの話をじっくり聞いて、症状に応じて運動療法・薬物療法・手術療法を提案。患者さんが望む生活を実現できるよう、しっかり支えています。また病棟では、医師、理学療法士、看護師から成る「排尿ケアチーム」を結成。排尿障害のある患者さんを毎週回診して、改善に結びつけています。

治療の基礎知識

症状に応じた治療を行うことで
排尿の悩みから開放され、
快適な生活を取り戻せます。

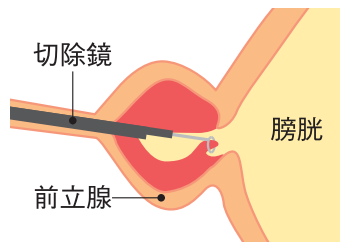
尿をためられない病気には まずは、運動と薬物療法を。

尿をためられない〈尿失禁〉〈過活動膀胱〉に対しては、まず運動療法を行います。これは骨盤底筋を鍛えるもので、尿道や肛門をゆっくりと締め、次にまたゆっくりと緩める動作を1日に数回繰り返します。症状が軽いと運動療法が効果的ですが、それで改善できない場合、薬物療法を併用して行います。これは、膀胱の収縮を抑え、尿もれを防ぐとともに、膀胱にたくさん尿がためられるようにする薬です。さらに、もう少し症状の重い尿失禁には、骨盤底再建手術(TOT、TVT)という手術療法もあります(女性対象)。これは緩んだ尿道括約筋や骨盤底筋を特殊なメッシュなどで補強するものです。



尿をうまく出せない病気は 薬物療法や手術療法を。

〈TURP(経尿道的前立腺切除術)〉 尿をうまく出せない〈神経因性膀胱〉〈前立腺肥大症〉に対しては、薬物療法が中心になります。神経因性膀胱には、膀胱を収縮させる神経を刺激し、弱くなった膀胱の力を強める薬を使います。前立腺肥大症には、尿道の筋肉を緩めて、尿の通り道を広げる薬を使用。近年は効果の高い薬が開発され、症状の改善に役立っています。また、前立腺肥大症に対しては手術療法もあり、現在最も一般的に行われているのが、経尿道的前立腺切除術(TURP)です。これは、尿道から内視鏡を挿入して、肥大した前立腺を削るもので、開腹手術に比べ、体の負担を少なく抑えられます。



デリケートな悩みだからこそ 話しやすい雰囲気をご心がけています。



泌尿器科
看護師
横山桂子

患者さん、とくに女性の方にとって、排尿に関わる悩みは話しづらいものです。そこで診察室では患者さんの気持ちに寄り添い、リラックスして話せるようにサポートしています。また、おむつや尿取りパッドなどについてもいろいろ提案し、勇気をもって受診された方が少しでもいい方向に向くように支えています。

Talk
01

排尿の問題を抱える入院患者さんを 排尿自立に向けて支援しています。



リハビリテーション
技術科
理学療法士
遠藤啓輔

排尿ケアチームの専任理学療法士として、入院患者さんの排尿自立を支援しています。具体的には、排泄に関わる一連の動作を評価し、どこで介助が必要なのかを見極め、適切な訓練につなげています。羞恥心の出る部分ですが、もともと介護福祉士だった経験も活かし、患者さんの生活の質を高められるよう努めています。

Talk
02

病院からのお知らせ

01

認知症ケアの質の向上をめざす、認知症サポートチーム始動。 地域の皆さまとともに、いりなか聖霊カフェ(認知症カフェ)を開催します。

2017年9月から医師・認知症看護認定看護師やコメディカルを含む認知症サポートチームが活動を開始しました。毎週、チームで入院患者さんのものをラウンドし、必要なケアを考えたり、病棟スタッフの相談を受けたりして、病院という限られた環境の中でその患者さんらしく生活できるように支援しています。今後は、地域の皆さまと力を合わせて認知症の方とその家族を支えていけるよう認知症カフェを開催することとなりました。第1回目は、2018年2月14日(金) 13:30からを予定しています。開催頻度は月1回ですが、当院を中心としてコミュニティの輪が広がることを願っています。※認知症カフェの詳細に関しては、ホームページなどをご確認ください。



お問い合わせ先 企画広報室

02

より美しく、より健康にお母さんと赤ちゃんのための産後食リニューアル

産後の栄養は、産後のからだの回復や赤ちゃんに必要な母乳の栄養、育児を行う体力の為にはなくてはならないものです。入院中は、病院食が基本となるため主食の量を多くすることで、産後の必要なカロリーを補っていました。そこで今回の産後食リニューアルでは、産後のお母さま方の要望も取り入れ、主食を減らし副食を増やすことでカロリーを補いボリューム感を出しました。また、食器を変え盛りつけ方を工夫し見た目も満足できるように思考を凝らしたメニューとなりました。昨年の10月10日から産後食メニューを開始していますが、今後も産後のお母さま方の要望を取り入れ、入院生活が満足できるように改善していきたいと思っております。



メニュー例:魚のポワレ

03

新任医師紹介

内科



野田久嗣

内科医長

(平成30年1月~)

聖霊病院には非常勤医師として約5年間、診療に携わっていましたが、この度、常勤医として勤務することとなりました。消化器内科を専門としています。今後も聖霊病院のポテンシャルを活かし、患者さんに安心して通院していただきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

編集後記

干支で使われる「戌(いぬ)」は「滅(めつ・ほろぶ)」につながる漢字であり、草木などが枯れ果てる意味。しかし、次の「亥(い)」は草木の生命力が、種などの中に閉じ込められているという意味があり、さらに次の「子(ね)」には、この草木から芽が出るという意味になるため、次へ進むための新しいステップになります。2018年戌年を、堅実な1年とするために、これまでの問題点を見つめ直すことを大切にしましょう。

企画広報室(加藤・服部)